**豊町四丁目町会　会長　佐藤 光二　さん**

私が豊町四丁目町会の第7代の会長になりましたが、私の祖父(豊吉)と父(仲男)は町会に深く関わっていたので少し述べます。祖父豊吉は大正2年に山形から出てきて暫くして鐡道省新橋工場(国鉄大井工場)に勤めていました。62歳の時(昭和29年)豊町四丁目町会が設立され、84歳で第3代会長に就任して89歳で退任しました。父仲男は習字、絵、写真(祖父の家に暗室を作り現像もしていた。)に長けていたので、これらが使われる町会の仕事は大抵仲男が関わっていました。また、「第五通信」(本ニュースの前身)は初めの頃から父がガリ版で、文字を書き挿絵を入れて刷って作成していました。

　私はというと、結婚してから会社の宿舎住まいで53歳の時に名古屋から品川に転勤になって今の所に住民票を移しました。豊四ちとせクラブには55歳で入り、62歳で会計担当になり、のち副会長になるなど豊四ちとせクラブに染まっていました。町会役員には70歳で交通部長になってからなので3年目です。安心で住みよい街作りを目指す一員として努力して参りますのでよろしくお願いします。

次回は、二葉神明町会にバトンタッチ

**『地域支援員(ボランティア)の活動紹介』―電話によるつながり―**

まだまだ厳しい暑さが続いていますが、荏原第五地区の皆さまはお元気でお過ごしでしょうか。今回は、地域支援員(ボランティア)の活動の一部をご紹介します。

コロナ禍で直接会うことが難しくなっても、「電話」でつながりを保とうと始まった地域支援員による定期的な活動の「ほっと電話」。荏原第五地区では、2021年2月に豊町五丁目町会会館をお借りしてスタートしました。2022年8月には2ヶ所目となるほっと電話がオープンし、現在は各拠点から毎月1回程度、電話でお話をしています。ほっと電話の利用料金はどなたでも無料です。

ある地域支援員は、「コロナが終わっても、ずっと続けなくちゃだめだよ。」「仲間を増やしていきたい。」「ほっと電話の活動がもっと広がってほしい。」と想いを語っています。

日頃から利用者の方の気持ちに寄り添い、同じ地域住民同士だからこそ話せる安心感は、ほっと電話の大きな魅力です。人と人とのつながりが感じられるほっと電話の活動は、見守りだけでなくお互いに元気をもらえる活動なのかもしれません。皆さんもつながりを感じてみませんか。ご連絡をお待ちしています。